

契約団体 各位

平素より弊社商品・サービスをご利用いただき誠にありがとうございます。

保健同人社電話健康相談室より「新型コロナウイルス」に関する最新の情報をお届けいたします。契約団体ご所属の皆さまの健康管理にお役立ていただければ幸いです。

株式会社保健同人社
電話健康相談室

「新型コロナウイルスに関連した感染症」情報

—トイレットペーパー買占め行動について—

2020年3月6日版

トイレットペーパー買占め行動を説明するための思考的試み

新型コロナウイルスによる感染拡大に関する「デマ」が発端となって、トイレットペーパーが店頭から消えるという事態が全国各地で起きています。一体、なぜこのようなことが起きてしまったのでしょうか。

合成の誤謬（ごびゅう）

それを説明するには、経済学の「合成の誤謬」という概念が役立つ可能性があります。「マスクの次はトイレットペーパーが足りなくなる」という噂が流れ、それを信じた消費者がトイレットペーパーを大量に購入し、本当にトイレットペーパーが店頭からなくなりました。メーカーは写真を見せて「在庫は十分あります」と訴え、政府は「冷静な対応を」と呼びかけても、人々は急いで買いに走りました。実際、トイレットペーパーは店頭から消えてしまったので、早めに買った人は経済学的には合理的な行動だったといえます。劇場で火災が発生した時に、観客が出口に向かって殺到し、かえって被害は大きくなったという話と同じで、観客は自分の命を守ろうと合理的に行動をしているため、劇場主が「走らないで」と呼びかけても、もはや聞く耳を持ちませんでした。

予言の自己成就

もう一つ、社会学の「予言の自己成就」という概念もトイレットペーパーを巡る騒動のからくりを説明するのに役立つ可能性があります。それは、たとえ根拠のない予言や期待であっても、本人や周囲が信じて行動した結果、その通りの現実が生まれてしまうという考え方です。「私たちの行動のもとになる事実は、社会的に構成されたもので、いつも客観的な事実（真実）をとらえているのではない。多数の人が信じていることや、予期に合致するものを事実として扱っている。また、人々が実際にとった行動は、次の行動の考える上の手掛かりとなり、事実が次の事実を生むループ構造が生まれ、社会的な事実がどんどん増幅されて、いずれ現実になる」という考え方です。そうすると、実際には生産量に問題がなかったにもかかわらず、なくなるかもしれないという不安が広がり、買いために走る騒ぎになり、本当に日本中のお店からトイレットペーパーが消えてしまったと説明がつきそうです。

【本日の用語解説】

合成の誤謬（ごびゅう）

ミクロ（個人や1企業）の視点では正しいことであっても、それが合成されたマクロ（経済全体）の世界では、必ずしも意図しないまたは良くない結果となる事例のこと（経済学用語）。例として、個人の貯蓄行動は個人の貯蓄額を増やしますが、貯蓄に回した分、消費が減り、市場全体の総需要（売り上げ）が低下につながる。

予言の自己成就

社会学者ロバート・K・マートンが提唱した概念で、「自己成就的予言(self-fulfilling prophecy)とは、最初の誤った状況の規定が新しい行動を呼び起こし、その行動が当初の誤った考えを真実なものとするものである」と定義した。

監修：寺下 謙三（寺下医学事務所 代表）

【参考】

- ・ 新型コロナウイルスに関するQ&A（一般の方向け）（厚労省HP）問23
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html#Q23
- ・ マスクや消毒液やトイレトペーパーの状況 ～不足を解消するために官民連携して対応中です～（経産省HP）
<https://www.meti.go.jp/covid-19/mask.html>